



きくもとパワー

きくすいもとまち幼稚園で札幌市研究実践園として一年間取り組んでまいりました研究の「成果と課題」について簡単に御報告いたします。

- 研究主題 質の高い幼児教育の実現に向けて
～つながる ひろがる 札幌市の幼児教育～
- 副主題 白石区／厚別区
～遊びを通じた幼児期の学びとは～
- 研究の視点 主体的、対話的で深い学びの充実

＜きくすいもとまち幼稚園の研究の重点＞
一人一人が集団の中でよさを発揮し、
学びを深めるための環境づくりと援助
～年齢の枠を越えた関わりを通して～

年齢の枠を越えた関わりを意識して実践してきた成果と課題は…

下線部は課題に感じたこと

子どもの育ちや学び



年長は相手の思いを押し量って関わることを学び、頼りにされることで自己肯定感、自己有用感が育った。

年長としてやってあげる心地よさだけではなく、逆に年中少からしてもらうことにも心を動かし、気持ちを表すようになってほしい

年中は年長に憧れて真似てきたことを、年少に同じようにやってあげることで人との関わりを学んだ

年少は大人との関わりでは得られない、質の違う安心感をもったようだ。

コロナの影響で、一緒に過ごす時間がない中、卒業に向けて5年生が送る会の準備をしたり、6年生が学校や下級生のために奉仕活動を行ったりする際、「互いにありがとうの気持ちを感じているのかな？」と思うこともある。特別支援学級では、普段から一緒に過ごしていることで、在校生が一生懸命準備し、6年生が喜んで受け取っている。

教師の援助や環境の構成



互いの姿や遊びが目に留まるように環境を構成。園庭のテーブルやホールの教材ワゴンが効果的だった。次年度は自ら関わる環境の在り方ももう少し工夫しては？

保育前、保育後の打ち合わせで、遊びの内容だけでなく、他クラスの子どもの様子を知ることができた。

保育中にその場で柔軟に連携してきた。教師同士が親しくしていることは子どもにとって安心できる

教師の振り返りをもとに話を深めました！

教師みんなが子ども全員の顔と名前、その子らしさやよさが分かる。自分を知ってくれている安心感がある。



札幌市立南郷小学校
教諭 松田 聡 先生



幼稚園と学校では規模が違うので同じようにはできないが、どの教師も同じ関わりをすることで子どもは安心する。教師間で情報交換することで、どの子にも声をかけてみようという気持ちになるのではないかな。



白石区研究実践園 研究アドバイザー
札幌大学女子短期大学部こども学科
教授 阿部 宏行 先生より

実際に保育を見て御助言をいただきました。

子どもを**見**ている先生から
子どもが**見**えている先生に
(佐伯 胖先生の言葉)

保育の振り返りから学ぶことの
大切さを再確認しました。

子どもはいつも大人を見上げる、大人から見下ろされる体勢で生活しています。人形遊びや模型などでは、子どもが、上から見下ろす世界だから楽しいのです。



ドッジボールでは、ボールの取り合いをじゃんけんで解決したり、当たったかどうかを周りの意見を聞いて判断したりしていました。また、終わる時間を多数決で決めていました。初めからスケジュールが決まっている生活の中では見られない姿です。



子どもに対して、自分のことを「私」と言うのか、「先生」と言うか。同じ目線で一緒に楽しむときには「私」であってほしいです。



きくすいもとまち幼稚園の研究を通して

阿部 宏行 先生より



- *「成長」とは、子どもの視点で見ると「背伸びとジャンプ」である。(佐藤学先生の言葉)。成功だけではないということ。失敗してもよい場所であること。その中で挑戦しようとする姿を逃さず褒める。
- *職員室が子どもの話で盛り上がる明るく元気の良い雰囲気幼稚園であること。先生同士の仲がよいことを子どもは見ている。
- *子どもからの目線では「先生が大好き」が大切。聞いてくれる、共感してくれる、側にいるなど気持ちがいいことが大前提です。
- *教師の関わりは年長になっていくにつれて「フェードインとフェードアウト」(必要な時にずっと入ってヒントを出し、子どもが解決に向かったら少し離れて見守る)を大切にする。

子どもと遊びの見取りについてアドバイスをいただきました。ありがとうございました。

お知らせ

令和4年度の研究のまとめとして
「一人一人がよさを発揮し学びを深める
きくすいもとまち幼稚園の生活」

を発行します。区内の幼稚園、こども園、保育所、小学校にお送りしますので、ぜひご一読ください。



次年度は、あつべつきた幼稚園と共同で研究を進めていきます。あつべつきた幼稚園の取組や、本園との研究交流などについても御紹介していきます。



次年度もどうぞよろしくお願いたします。